

序

第二次世界大戦によって壊滅状態にまで追い詰められていた日本経済は、勤勉実直に働き続けた市民の努力によって蘇り、いまや世界有数の経済大国と言われるまでに発展した。それに伴い、市民の生活は豊かになり、個としての様々な想いが存在する社会になった。

この状況が反映したのか、学校にはいじめ、不登校を始めとした多くの課題が発生し、教職員がその対策に追われるようになってきている。一方で、子どもたちへの親の想いが熱を帯び、塾を始めとした学校外での教育が盛んになっている。このような状況は60年前の制度設計の中には想定されておらず、その制度を維持し、基本的な考え方を踏襲している学校の教育に大きな影を落としている。

さらに社会は情報化に向けて走り続けている。多くの情報が集めやすく活用しやすくなってきているのも事実である。しかしこの恩恵を受けるのは、人口が密集した都市部と言われる地域に居を構えている市民のみであり、ITのインフラが整備されない地域、特にへき地や島嶼部の人々はその進化からは取り残されつつある。

このような社会や教育における格差が進展する中で、都市部においては凶悪な犯罪や青少年による痛ましい事件が多発するようになってきた。この原因には様々なことが考えられるであろう。しかし、今一度、過疎化が進むへき地や島嶼部の社会に目を転じて欲しい。子どもたちが地域の手で守られ、多くの人々とのコミュニケーションが存在している社会においては、痛ましい事件等の発生は極めて珍しい。日本の最南端の小さな高等学校が甲子園への切符を手に入れたように、地域が守り育てることによって子どもたちの可能性は広がっていくのである。

我々は日本社会が急速に発展する中で、日本文化を支えてきた非常に大切なものをどこかに置き忘れてきたのではないかと危惧している。また、その何かがへき地や島嶼部の教育で何気なく重要な役割を果たしていると考えている。へき地や島嶼部を多く抱える県に設置されている琉球、鹿児島、長崎の三大学の教育学部が手をつなぎ、日本の将来の教育を左右する鍵を見つけることは、我々に課せられた大きな責務である。子ども理解、学校教育、情報化の活用、そして平和への心の育成という四つの分野からの追究になるが、成果を有機的に構築し、学校教育のあり方の具体像を明らかにして、日本の教育界に発信したいと考えている。

平成18年2月

長崎大学教育学部長 橋本 健夫

Preface

The Japanese economy which was destroyed in World War II developed until it became through the efforts of its people the eminent economic power in the world. With prosperity, life became easier, and opportunities arose for radical thought in Japanese society. Whenever this situation is reflected in a school, there are problems of bullying and non-school attendance, and the staff of a school is responsible.

On the other hand, instruction by a parent to children is tinged with emotion, and education in the home thrives as it can in a private supplementary school. Such a situation was not anticipated 60 years ago when the school system was designed, and it has cast a big shadow across the school education which is conservative and resistant to change. Society needs more information. It is a fact that it is easy to collect such information, and is easy to use it.

However, to reap the benefit, it is advantageous to live in urban areas which are densely populated. The people of more remote places and islands, where infrastructure of IT is less advanced, are excluded from the evolution of infrastructure of IT.

Criminal activities and family hardship involving the young people occur frequently in urban area. There are various reason for this. However, we want to look once again at the situation in remote places and in the society of islands which are experiencing depopulation. It is extremely unusual to hear of a breaks down in such a society where children are protected and everyone knows everyone else.

A small high school in southernmost Japan seems to have obtained a ticket to Koshien, and there is a possibility that children will become strong as a consequence. We feel uneasy when we forget the very important things that define traditional Japanese culture to move somewhere where Japanese society develops rapidly. In addition, there are some things that play an important role in children's education in remote places and islands generally.

The Faculty of Education of the three Universities of Ryukyus, Kagoshima, and Nagasaki, which are located in a prefecture where there are a lot of remote places and islands, join forces to find a key to improving Japanese future education. In the four areas of child understanding, school education, practical use of information and traditional upbringing, we investigate, analyze, and develop a concrete image of an ideal method of school education, which we regard as suitable for of Japan.

三大学連携事業の平成17年度の取組

長崎、琉球、鹿児島の大大学の教育学部は平成17年度から「新しい時代の要請に応える離島教育の革新」というテーマのもとに連携した研究を行なっている。序文にもあるように日本社会がどこかに置き忘れてきた何かが、へき地や島嶼部の教育で重要な役割を果たしていると考えている。その研究成果を日本の教育界に発信するため、本年度は下記のように取り組んだ。

長崎大学における取り組み

三大学の打ち合わせに従って、学部内でそれぞれの主題に対する研究グループを構築した。主幹は、教育学部の研究推進委員会の委員長が務め、その采配に従って各グループが活動している。

子ども理解のグループ：世話役は、原田先生である。内容的には、心的な部分と身体的な部分に分かれて研究を進めている。後者の身体的な研究のまとめ役は山内先生である。それぞれ、五島をはじめとした離島に出かけ、子ども理解のためのデータを集めている。その分析の一端を今回の報告書に載せることになっている。

複式学級のグループ：世話役は村田先生である。附属小学校の先生方も加えて研究を進めている。特に小学校の研究発表会の際に設けられる複式学級検討会での話題を取り上げ、研究の効率化を目指している。

遠隔教育：世話役は藤木先生である。琉球や鹿児島と情報の交換を行って、相互の授業への活用を検討している。機器はある程度揃ったので来年度に向けた準備を行っている。

平和教育：琉球と長崎の交流が進んでおり、相互に訪問している。ここでの検討を踏まえて今回の報告書に記載した方針で研究の展開を図りたい。ただ、鹿児島との連携が十分でないため、来年度に向けて調整が必要と考えている。

琉球大学における取り組み

2005年1月31日三大学教育学部連携協力に関する協定書が締結された。5月教授会議題として「三大学連携事業」が提案され承認された。6月教授会でe-Learning（責任大学：琉球大）、複式学級（責任大学：鹿児島大）、子ども理解・平和教育（責任大学：長崎大）の4部会への協力者を募集し、各部会代表世話人として米盛・吉田・小林・山口先生を選出した。7月16日には鹿児島大で三大学連絡会議に参加し、各部会及び部会間の情報交換をした。また、12月には三大学関係者が連携して沖縄県の離島である渡嘉敷村の村教育委員会を表敬訪問、2つの小学校を視察し情報交換をした。

現在、協力者数は15名となり、協力者会議は5回を数え、活発な意見交換をし3月のシンポジウムへ向け活動を展開している。なお、e-Learning部会主催の研修会が2回実施され学部教員の理解を深めた。次年度の課題として、協力者の拡大と綿密な実施計画が挙げられる。

鹿児島大学における取り組み

三大学連携プロジェクトの委員を教授会で承認し、更にプロジェクトに参加を希望する教員を募りメンバーを増やした。主な研究テーマと担当者は以下の通りである。

離島・へき地における授業・学校づくりの充実に関する実際研究（教育学 狩野浩二）：大島養護学校と連携した離島の特別支援教育の振興策に関する研究（養護 宮内英光及び養護学校教員）：ITを利用した離島・へき地教育の充実に関する研究やテレビ会議システムの運用環境と教師心理に関する研究、離島・へき地における研修の実施、及び「生徒指導」の課題に関わる調査・研究など（教育工学 園屋高志）（心理学 関山 徹）（教育学 河原尚武）

複式学級と単式学級との話し合い場面における比較研究（心理学 假屋園昭彦）：離島・へき地における複式教育の実践的研究（附小複式 中鉢吉彦＋附属小教員）：離島における養護教諭の職務（健康教育 徳田修司）：離島における複式学級の身体活動量と体力向上に関する研究（保健体育科 丸山敦夫）：複式学級における算数・数学、理科、国語、社会科、音楽、図画工作などの授業の改善に関する研究（数学 植村哲郎、佐々祐之）（理科 八田明夫）（国語 上谷順三郎）（社会 溝口和宏）（音楽 島澤 郎）（彫塑 池川 直）

平和教育に関する研究（国語 新名主健一）

それぞれのテーマに基づき長崎、琉球大学の類似のテーマの研究者と協力して複式授業を実践している沖縄県の離島の学校を共同で参観したり、三県でアンケート調査を行ったりした。

目 次

離島における教育の実情と課題 原田純治, 村田義幸, 進野智子, 赤崎眞弓, 福田正弘 平岡賢治, 小島道生 (長崎大学教育学部)……………	1
鹿児島における平和教育 新名主健一 (鹿児島大学教育学部)……………	7
離島及び僻地の小さな学校から始める平和教育 橋本健夫*, 山口剛史**, 全 炳徳* (*長崎大学教育学部, **琉球大学教育学部)……………	11
長崎県における複式教育の実情 村田義幸*, 橋本健夫*, 北村右一*, 平岡賢治*, 水戸一幸**, 浦田 武** (*長崎大学教育学部, **長崎大学教育学部附属小学校)……………	21
沖縄県の公立小学校複式学級における理科授業実践上の問題点とその改善に関わりうる 大学の教員養成への提言 吉田安規良*, 松田恒一郎** (*琉球大学教育学部理科教育講座, **琉球大学教育学部生涯教育課程自然環境教育コース)……………	27
習熟度別指導に役立つ複式授業の研究 (予報) 八田明夫 (鹿児島大学教育学部)……………	33
複式学級における算数科指導の改善に関する研究 佐々祐之*, 植村哲郎*, 平岡賢治**, 湯澤秀文*** (*鹿児島大学教育学部, **長崎大学教育学部, ***琉球大学教育学部)……………	39
沖縄県離島地域における子どものメンタルヘルスとライフスタイルおよび体力の関連 —竹富町の小学生を対象として— 小林 稔*, 高倉 実**, 小橋川久光*, 吉葉研司* (*琉球大学教育学部, **琉球大学医学部)……………	47
長崎県五島列島中部島嶼地域の児童・生徒の体格・体力の特徴 田原靖昭, 山内正毅, 中山雅雄 (長崎大学教育学部保健体育講座)……………	51
e-Learningを用いた離島・へき地学校教育に関する研究 米盛徳市 (琉球大学教育学部)……………	57
ICT活用による離島教育の充実・発展に関するプロジェクト報告 (長崎大学) 藤木 卓*, 寺嶋浩介*, 森田裕介*, 古賀雅夫*, 全 炳徳*, 中村千秋*, 西山敏明**, 浦田 武*** (*長崎大学教育学部, **長崎大学教育学部 附属中学校, ***長崎大学教育学部附属小学校)……………	65

CONTENTS

Actual Conditions and Tasks of Education in Isolated Islands HARADA Junji, MURATA Yoshiyuki, SHINNO Tomoko, AKASAKI Mayumi, FUKUDA Masahiro, HIRAOKA Kenji, KOJIMA Michio (Nagasaki University, Faculty of Education)	1
Education of Peace in Kagoshima SHINMYOUZU Keniti (Kagoshima University)	7
A Study on the Peace Educations Which Are Begun at Small Schools in Remote Islands and Places HASHIMOTO Tateo*, YAMAGUCHI Takeshi**, JUN Byungdug* (*Faculty of Education, Nagasaki University, **Faculty of Education, University of the Ryukyus)	11
The Actual Circumstance of Double-grade Joint-Learning System in Primary School of Nagasaki-prefecture MURATA Yoshiyuki*, HASHIMOTO Tateo*, KITAMURA Yuiti*, HIRAOKA Kenji*, MITO Kazuyuki**, URATA Takeshi** (*Nagasaki University, Faculty of Education, **Nagasaki University, Faculty of Education; Attached Elementary School)	21
A Study on Issues of Science Curriculum for a Combined Class of Two Grades in Public Elementary School in Okinawa, and Some Requirements for the Current Teacher Training Program in Undergraduate Course YOSHIDA Akira*, MATSUDA Kouichiro** (*Department of Science Education, Faculty of Education, University of the Ryukyus, **Natural Environment and Education Major, Lifelong Learning Program, Faculty of Education, University of the Ryukyus)	27
A Preliminary Study of the Application of the Combined Class to the Teaching, According to the Learning Level HATTA Akio (Faculty of Education, Kagoshima University)	33
A Study on Arithmetic Education in the Combined Class of Elementary School SASA Hiroyuki*, UEMURA Tetsuro*, HIRAOKA Kenji** ,YUZAWA Hidefumi*** (*Faculty of Education, Kagoshima University, **Faculty of Education, Nagasaki University, ***Faculty of Education, University of the Ryukyus)	39
The Relationship between Mental Health, Lifestyle and Physical Fitness in Children in the Outlying Islands of Okinawa Prefecture: Focusing on Elementary School Students in Taketomi Ward KOBAYASHI Minoru*, TAKAKURA Minoru**, KOBASHIGAWA Hisamitsu*, YOSHIBA Kenji* (*Faculty of Education, University of the Ryukyus, **Faculty of Medicine, University of the Ryukyus)	47
Physique and Physical Fitness of Central Goto Island Areas of Nagasaki Prefecture TAHARA Yasuaki, YAMAUCHI Masaki, NAKAYAMA Masao (Department of Physical Education, Faculty of Education, Nagasaki University)	51
Research on Remote/Outlying Island School Education Using e-Learning System YONEMORI Tokuichi (Faculty of Education, University of the Ryukyus)	57
Report of Activity about Enhancement and Progress of Isolated Island Education using ICT: Case of Nagasaki University FUJIKI Takashi*, TERASHIMA Kosuke*, MORITA Yusuke*, KOGA Masao*, JUN Byungdug*, NAKAMURA Chiaki*, NISHIYAMA Toshiaki**, URATA Takeshi*** (*Faculty of Education, Nagasaki University, **Attached Middle School of Faculty of Education, Nagasaki University, ***Attached Primary School of Faculty of Education, Nagasaki University)	65